

# 徳島大学附属図書館の未来を語る

## 薬学部同窓会「薬友会」鳥取会長に図書館をご見学いただき、図書館の未来について話し合いました。

### 図書館の学習環境

**吉本** 図書館の本館と蔵本分館をご覧いただきましたが、印象はいかがでしょうか。

**鳥取** 非常に明るい感じで活気がありますし、閲覧室は一日中過ごせるように心地良く、恵まれた環境の中で学生は幸せだと思います。図書館というのは大学の魅力の一つで、大学を選ぶ時のポイントだと思います。



薬学部同窓会「薬友会」会長  
**鳥取 桂** (とっとりかつら)  
(元大塚製薬常務執行役員)

**吉本** 図書館本館は平成21年、分館は24年に改修し、学習環境を改善してさまざまな取り組みを行ってきました。例えば、本館1階ではSSS(スタディ・サポート・スペース)

コンテンツ制作などの面で図書館が協力できると良いですね。

**鳥取** そういうことができるのが図書館かなと思いますし、全学の共通のコアになるころだと思います。

### ディスカッションで修羅場の疑似体験を学生のついでに

**吉本** 図書館にはグループで学習できる部屋が、本館には2室、分館には6室あり、ディスカッションしながら学習する環境も整えています。企業の中で色々な立場で活躍された鳥取さんから見て、企業が求める人材を育てるために図書館は何をすべきでしょうか。

**鳥取** 最近の学生は全般的におとなしくなってきたので、自分から意見を発することが少ないようですので、大学の中で修羅場のような、失敗から這い上がるという経験をさせてほしいと思います。みんなの前で自分の意見を論理立てて述べる、そこから攻撃された時にどう切り返すかということや学べるのが図書館ではないかと思えます。東洋的なディスカッションは、意見と批判が自分に来ると考えますが、西洋的な考えは、意見は別に置いてみながら意見を攻撃する、人間を攻撃するのではなく、ということを開いたことがあります。

ス)という部屋を設け、数名のボランティア教員等により、物理や数学等の時間を組んで学習相談に応じたり、質問に来る学生は自由に出入りできます。SSSは、図書館と共同で運営する学生サークルが直接教員と交渉してボランティアを引き受けていただいています。他大学では見られない

い取り組みだと思っています。

**鳥取** 補講してくださるようなものですね。ものすごく親切だと思いますし、それを学生が管理しているというのすばらしいですね。

**鶴尾** 図書館の中にこのような学習相談の場所があると、尋ねやすいと思います。また、最近は学習方法もアクティブ・ラーニングへ

と変わってきましたので、図書館でもこれに対応しています。

**吉本** 図書館では、1年生ではまず図書館の利用法、それから研究と段階に応じてリテラシー教育を行っています。



附属図書館長  
**吉本 勝彦** (よしもとかつひこ)  
(大学院医歯薬学研究部 歯学域 教授)

**鳥取** 学生の中にはちょっと背中を押してあげると進めると、いう人もいますので、レポートや論文作成時にリテラシー教育で後押ししてあげるプログラムがあるといいですね。アメリカ等では文章作成訓練システムを充実させている図書

館は人気が高いと聞きますし、また、企業でもサイエンスライティングといった教育プログラムがあります。

**吉本** 論理的な分かりやすい文章を書くためのアカデミックライティングの教育は、各学部で行っています。ただ指導する人材が必要ですので、図書館も積極的に関わる必要があると思います。

**鶴尾** 学習環境としては、分館では閉館後も時間外利用ができ、特に試験期は非常に多くの学生が利用しています。また、ネットワーク環境も充実させており、本館55台、分館40台のパソコンの他、WiFi環境も整えています。

**鳥取** 将来、eラーニングの遠隔授業が進んできたら学生は下宿から一歩も出ないということもあるのでしょうか。

**吉本** ICTを活用して授業を行う時に図書館も教員に対してサポートできる立場になれたらいいと思います。著作権処理が必要なものが多いです。



これができるとブレインストーミングも上手にできると思いますし、それを引っ張っていく司会のリーダーシップも培われます。

**鶴尾** なかなかそのような場に出会うことが少ないと思いますので、そのようなトレーニングの場を作ってあげることが大切ですね。

### 図書館の地域貢献

**吉本** 全国の大学でも地域活性化のための取組みが行われており、大学が地域とどう関わるべきかは大きな課題です。図書館は以前から一般開放しており、一般の方が本館では1日平均55人、分館では25人ほど来館されています。

**鳥取** 一般の方が徳島大学の図書

館を利用できるということは知りませんでした。地域に根ざしたということを考えると、特に分館は医療系の図書館ですので、そういう知識を得たいと思う一般の方はすごく多いと思います。例えば先生がセミナー等を開催して下さると、来たいと思う方はたくさんいらっしゃると思います。



附属図書館蔵本分館長  
**鶴尾 吉宏** (つるお よしひろ)  
(大学院医歯薬学研究部 医学域 教授)

**吉本** 当館では徳島市立図書館との連携事業として、市民の方を対象にした「検査値の見方」、「認知症」、「糖尿病」等をテーマにした医療講座を2年前から開催しています。また、学生や地域の医療関係者を対象とした「臨床研究論文の読み方」等のワークショップや、四国遍路等をテーマにした学術講演会を開催しています。

**鶴尾** 地域の方も図書館で学生と交流してもらえると良いですね。

### 人と人がつながる交流の場

**吉本** 本学では予算縮減に対応するために収益を

上げるための取組みを色々行っていますが、図書館でも読み終えた本を提供していただいで、その売り上げを寄附として受け入れる古本募金を行っています。今後、企業から援助をいただけるような関わりを作るといふ点で何か良い方法はあるでしょうか。

**鳥取** 企業側に何かメリットが無ければ難しいですが、企業にとっても地域貢献というのは大切ですので、地域に根付いた何かがあればいいのではないかと思います。例えば、Google本社にもゲームエリアがあるようですが、人を集めて人と人のぶつかり合いの機会を作るといふ効果があるようです。

**吉本** 図書館が魅力あるイベントを行うことによって、教職員や学生が1日1回でも図書館に立ち寄ってみようと思われようような、交流の場として機能できればいいと思います。本日はありがとうございました。